



再び冬を迎える万年雪



▲2024年8月22日撮影。
谷間に万年雪が確認できる。



▲2024年11月8日撮影。
万年雪が確認できない。

万年雪とは、降り積もった雪が谷に堆積し、夏になっても雪渓として残り、そのまま越年するものを言います。とけずに残り、再び降雪を迎える雪ということで、なんともロマンのある存在です。日本の万年雪は、北アルプス、三国山脈から東北地方の日本海側、北海道などで見られます。例えば、鳥海山、月山、飯豊山、越後駒ケ岳、荒沢岳、谷川岳などです。これらはいずれも豪雪地帯にあります。場所によっては観光名所にもなっています。只見町も同じ豪雪地帯ですが、万年雪が話題になることはありません。ところが、この只見町にも新潟県との境にある鬼が面山の東壁斜面下部の谷間に、万年雪があるのです。浅草岳の只見沢登山口から登山道を行き、剣ヶ峰のある尾根まで登るとその姿を望むことができます。この万年雪が位置する標高はわずか900mほどで、国内トップクラスの低標高にある万年雪です。豪雪が生み出した置き土産といったところでしょうか。

ところが、2024年にこの万年雪が消えてしまいました。2023-2024年の冬は積雪が少なく、夏も高温が続き、秋も気温が高かったのが消失の原因かもしれません。それでも、2025年は再び万年雪が復活しています。機会がありましたら只見町の万年雪を観察してみてください。

只見町ブナセンターからのお知らせ

JR只見線駅舎内のスペース「只見BAUM（バウム）」では、この秋に只見町認定こども園「ぶなのもりこども園」の年長さんたちと秋の自然体験を行う中で創作した秋の音を描いた作品を展示しています。お誘いあわせの上、子どもたちと只見の自然がコラボレーションした作品をご覧ください。